

Ⅰ 自己評価結果に対する学校関係者評価

【管理職関係：保護者】

- ①Q 1 学校として、スクールミッション、スクールポリシーに基づいた教育活動が実施されている
- ②Q 2 生徒の学校生活は充実している
- ③Q 17 学校として、課題を発見し解決に向かい論理的に思考する探究活動が行われている

【管理職関係：生徒】

- ①Q 1 学校として、スクールミッション、スクールポリシーに基づいた教育活動が実施されている
- ②Q 2 生徒にとって学校生活は充実している
- ③Q 7 学校として、課題を発見し解決に向かい論理的に思考する探究活動が行われている
- ④Q 22 生徒は先生方の関係において思いやりを感じている
- ⑤Q 23 生徒は先生方から高い期待をかけられていると感じている
- ⑥Q 24 学校の活動で生徒が活躍・貢献できる場面があると感じている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
管理職関係	①スクールミッション、スクールポリシーについて 保98 生98 職100	A	スクールミッション、スクールポリシーについて、本校ホームページ上での情報公開、機会のあるごとに生徒や保護者に説明してきた結果、その内容と具体的な取組に対して、保護者（98%）、生徒（98%）、職員（100%）という高い評価を得た。特に生徒の評価に至っては、昨年度より7%ポイントが上昇している。今後も情報公開と細かな説明を継続していきたい。	A	A
	②学校生活の充実について 保96 生98 職100	A	ここ数年、保護者（93⇒96⇒96%）、生徒（87⇒95⇒98%）、職員（89⇒97⇒100%）と高い評価を維持している。本校が目指す「自己決定する力・学び続ける力・他者と関わる力」の育成や、本校が大切にしている「学びの土壌づくり」が広く支持されたものと捉えている。	A	A
	③探究活動の取り組みについて（新規項目） 保93 生98 職100	A	今年度より新設された質問項目であるが、保護者（93%）、生徒（98%）、職員（100%）と全ての調査対象者の回答で90%を超える高い評価を得ることができた。令和元年度の文部科学省の指定を受けてから今年度に至るまで、関係機関と連携しながら、取組内容等を改善していくことで、高い評価を得ることができたと考え。今後も本取組を継続・深化させていきたい。	A	A
	④生徒への思いやりについて 保 生95 職	A	昨年度より新設された生徒対象の質問項目であるが、昨年度より1ポイント上昇して95%という高い評価を得た。これは、教職員による対話を重視した生徒との関わりと、生徒の活躍や良いところを発見し、それを生徒指導や進路指導等に反映できている結果であると捉えている。	A	A
	⑤生徒への期待について 保 生86 職	A	昨年度より新設された生徒対象の質問項目であるが、昨年度より3ポイント上昇して86%という評価を得た。概ね我々が生徒に抱いている期待を生徒も受け止めてくれていると考える。今後も引き続き、期待を持って生徒とともに学校づくりを進めていくが、その課程で我々の期待感が生徒の重荷にならないよう注意していきたい。	A	A
	⑥生徒の活躍・貢献について 保 生97 職	A	昨年度より新設された生徒対象の質問項目であるが、昨年度より4ポイント上昇して97%という高い評価を得た。これは、生徒が学校生活を主体的に取り組み、生徒会活動や部活動等において、日々の活動の成果を実感できているからだと考えられる。引き続き、生徒自らが活躍・貢献できる環境作りに努めていきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【総務関係：保護者】

- ①Q 3 保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
 ②Q 4 保護者に対して、学校便り、メール配信などによって、学校の情報は適切に伝えられている

【総務関係：生徒】

- ①Q 3 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
 ②Q 4 生徒に対して、学校便り、メール配信などによって、学校の情報は適切に伝えられている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務関係	①災害・非常時の対応について 保90 生94 職100	A	回答1・2の割合は昨年比、保護者86%→90%、生徒95%→94%、職員97%→100%であった。若干の変動はあるものの緊急時の対応はある程度理解を得られたと思われる。 今後は防災体験学習や西翔暦などをおして確認を怠らず、生徒の安全にかかわる行事などの充実に努めたい。	A	A
	②学校情報の伝達について 保96 生96 職100	A	回答1・2の割合は昨年比、保護者89%→96%、生徒96%→96%、職員97%→100%であった。昨年度から保護者に関しては7%上がっており、理解を得られたと思われる。 PTA役員会で話題として取り上げたり、西高実況中継、HP、PTA広報誌などで学校の情報を発信していきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【学習指導：保護者】

- ①Q 5 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている
 ③Q 6 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス（学習の手引き）が活用されている

【学習指導：生徒】

- ①Q 5 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている
 ②Q 6 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス(学習の手引き)が活用されている
 ③Q 8 本校の教育課程や選択科目は生徒の進路に適している

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
学習指導関係	①学ぶ意欲を引き出す授業について 保93 生94 職100	A	(保護者) 83%(R4)→92%(R5)→93%(R6) (生徒) 79%(R4)→90%(R5)→94%(R6) (職員) 97%(R4)→100%(R5)→100%(R6) 極めて高い水準である。授業者が授業の振り返りの時間等を活用して、生徒の困り感をすくい取る努力をしていることや、生徒に対して様々な配慮をしていることの現れであると理解している。引き続き研鑽を積んでいきたい。	A	A
	②シラバスの活用について 保94 生90 職90	A	(保護者) 88%(R4)→90%(R5)→94%(R6) (生徒) 81%(R4)→88%(R5)→90%(R6) (職員) 92%(R4)→92%(R5)→90%(R6) 高い水準となっている。各教科が構成を工夫し、授業や科目選択で適宜活用していただいた結果ではないか。次年度はデータ化する予定なので、さらに活用しやすくなることが期待される。	A	A
	③教育課程・選択科目について 保 生97 職100	A	(生徒) 90%(R4)→94%(R5)→97%(R6) (職員) 100%(R4)→81%(R5)→100%(R6) 新学習指導要領に合わせた教育課程の課題が顕在化してきたことに対して、随時対応してきた結果、昨年度に低かった職員の数値が回復したと考えられる。引き続き本校に相応しい教育課程を検討していく。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【進路指導：保護者】

- ①Q 7 生徒の進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
 ③Q 8 「進路の手引」はお子様の進路実現のために役立っている

【進路指導：生徒】

- ①Q 9 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
 ②Q 10 課外講習は、生徒の進路希望実現のために役立っている
 ③Q 11 「進路の手引」は、進路希望実現のために役に立っている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
進路指導関係	①進路目標の明確化について 今 保92 生95 職100 昨 保92 生95 職97	A	昨年度同様の高い水準の評価が得られた。 春と秋に設けてある生徒面談週間は、生活指導と進路指導が主に行われている。進路支援部から進路に関する成績と進路希望の資料を担当に提供することで、生活面や学習面の見直しや自分の進路に関する振り返りがしやすくなった。面談週間以外でも定期考査修了後などに個人面談は定期的実施されている。	A	A
	②課外講習について 今 保 生96 職98 昨 保 生91 職86	A	生徒、教員とも昨年度よりよい結果となった。昨年度は、補習的な課外講習を望む声も多かったと聞いていたが、今年度は希望者も増え、講習後のアンケートにおいても満足度が高くより高いレベルでの講習を望む声も増えてきた。コロナの影響があったのかここ数年減少傾向であった、大学進学数が昨年度から上向きになり在校生においても年々大学希望者が増加してきていることも影響していると考えられる。	A	A
	③「進路の手引き」の活用について 今 保90 生92 職100 昨 保91 生93 職94	A	昨年度同様高い水準で評価であった。進路の手引きに関しての活用度は高いと思われる。三者面談において保護者が持参する例も報告されている。特に指定校推薦の仕組みや選ばれるまでの経緯などに興味があるようである。総合選抜や一般入試の合格者数や体験記などからモチベーションをあげる例もあるようなので、今後も卒業生の進路データの活用を進めていく。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【生徒指導：保護者】

- ①Q 9 生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている
- ②Q10 学校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている
- ③Q11 学校として、部活動は活発に行われている
- ④Q12 学校として、生徒会活動は活発に行われている
- ⑤Q13 お子様にとって、有意義な学校行事がある

【生徒指導：生徒】

- ①Q12 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている
- ②Q13 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる
- ③Q14 学校として、部活動は活発に行われている
- ④Q15 学校として、生徒会活動は活発に行われている
- ⑤Q16 生徒にとって、有意義な学校行事がある
- ⑥Q17 交通ルール遵守の指導が行われている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
生徒指導関係	①基本的生活習慣の確立について 保90 生90 職86	B	考えさせる指導、生徒に決断させ責任を持たせる支援は定着してきた。しかし、一部生徒の行動の変容には到らない感がある。粘り強く対話を続けていく。	A	A
	②いじめ問題に対する早期発見と取り組みについて 保79 生87 職100	B	アンケートや面談、日常の観察により早期発見に努めている。何よりも、生徒が教職員に相談しやすい雰囲気が溢れている。この雰囲気は今後もずっと継続して行かなければならない。今後は、保護者に対していじめ早期発見の取り組みを周知していきたい。	A	A
	③部活動の活発化について 保93 生96 職100	A	既存の部活だけでなく、本校部活にない活動の参加を教職員が積極的にサポートしており、生徒の意欲向上に努めている。	A	A
	④生徒会活動の活発化について 保96 生98 職98	A	活動することで何かが変わることを経験することで、より積極的に活動するようになってきている。今後も見守りと、支援を続けていきたい。	A	A
	⑤学校行事について 保97 生99 職100	A	各行事の担当生徒が主体的に活動できるようになった。また、参加する生徒も積極的になっており生徒みんなで行事に参加している感が強くなった。	A	A
	⑥交通ルール遵守の指導について 保 生92 職90	B	交通ルール遵守やマナーについてはことある毎に注意喚起を行っている。もっと、生徒自ら注意喚起を行うような活動を展開していきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【保健厚生関係：保護者】

- ①Q14 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている
 ②Q15 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている

【保健厚生関係：生徒】

- ①Q18 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている
 ②Q19 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている
 ③Q20 ゴミの分別処理・ゴミ拾いなどの校舎内外の清掃や環境美化の指導に取り組んでいる

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
保健厚生関係	①健康の保持増進について 今保97 生99 職98 昨保97 生99 職100	A	・昨年度同様保健室利用者が多い状況。1月中旬時点で昨年度と同じくらいの年間利用者（2,200人ほど）となっている。心身の不調を訴え来室する生徒へ、生活習慣の見直しや、心の不調に対する対応など、生徒が抱える健康問題の改善に努めた。 ・感染症が疑われる症状の生徒は、早めに早退させる等の対応をとり、感染拡大防止に努めた。	A	A
	②教育相談について 今保96 生97 職98 昨保93 生95 職97	A	保健室利用者の中でも、昨年度同様「気分不良」や「相談」の生徒が多い。保健室でもできるだけ丁寧に本人の訴えを傾聴しているが、深刻なケースや長期的な支援が必要と感じる生徒については、SCやSSWにつないでいる。また、教室に入りづらい生徒や、発達に課題を抱える生徒に対しても、学年との情報共有やカウンセリング実施につなぐことができた。	A	A
	③環境美化について 今保 生93 職95 昨保 生91 職86	B	教員数の減少により、清掃分担区の兼務を余儀なくされる教員もいた。来年度は分担区の見直し等も検討し、日々の清掃が行き届くようにしていきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【事務関係：保護者】

Q16 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

【事務関係：生徒】

Q21 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
事務関係	①施設・設備の整備について 保84 生86 職93	B	教職員による毎月の安全点検のほか、技師による日頃の観察で、早期発見・修繕を行っている。 施設老朽化による破損箇所が増えているため、施設設備の充実よりは、危険箇所の補修を重点的に実施している状況であるが、大規模なものもあり、なかなか全て改修できていない状況である。 今後も生徒・教職員が共に安心安全な教育活動を送ることができるよう、施設設備を整備していきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
①生徒への思いやりについて	昨年度より新設された生徒対象の質問項目で95%という高い評価を得ている。これは、教職員による対話を重視した生徒との関わりと、生徒の活躍や良いところを発見し、それを生徒指導や進路指導等に反映できている結果であると捉えている。 次年度以降も面談期間などを活用し、対話を重視した取り組みを継続的に行い、生徒との信頼関係の構築に努めたい。
②災害・非常時の対応について	回答1・2の割合は昨年比、保護者86%→90%、生徒95%→94%、職員97%→100%であった。若干の変動はあるものの緊急時の対応はある程度理解を得られたと思われる。 次年度以降も防災体験学習や西翔暦、学校安全点検などをおして日常の確認を怠らず、非常時には情報収集・伝達に努め、生徒の安全にかかわる環境の充実に努めたい。
③いじめ問題に対する早期発見と取り組みについて	今年度も生徒の肯定的な評価は89%→87%と横ばいで取り組みは受け入れられていると考えられる。保護者に関しては肯定的な評価は75%→79%と若干ではあるが年々上昇傾向で、家庭での子どもたちの様子で感じ取っているものと考えられる。 毎年、この項目は改善の方策に取り上げており、次年度も例年同様、緊張感を持ちながら、生活アンケート、面談等の内容・頻度などを工夫改善していきたい。

